

とちぎのGDP

～地の利を生かして成長する産業～

本県の平成17年度の県内総生産額は、8兆1,959億円で全国17位となっています。これは諸外国のGDPに当てはめると50番目前後となり、人口が約10倍のルーマニアとほぼ同じ規模となります。また同年の実質経済成長率は+4.2%と4年連続のプラス成長となっています。

県内総生産額を産業別にみると、第2次産業、特に製造業の発展が目立ちます。県内総生産額に占める第2次産業の割合は全国3位の42.4%に達し、中でも食料品、電気機械及び輸送機械のウエイトが高くなっています。

また、第1次産業では、産出額が全国でも上位の米や麦類・畜産のほか、野菜や花の栽培などが盛んに行われ、東京方面に多く出荷されています。

第3次産業ではゴルフ場の運営などの娯楽業や企業の研究所等の立地によりサービス業の比重が近年高まっています。また、日光や那須などを中心に観光客が多く訪れ、宿泊業や飲食業も盛んです。

このように、それぞれの産業が発達してきた背景には、勤勉実直な県民性とともにも本県の地理的優位性があります。

東京から比較的近く、高速道路や新幹線などが整備され交通の便が良いこと、自然豊かで水や土地資源に恵まれていること等の利点を活かし、工業化政策や首都圏農業、観光施策などが展開されてきました。

今後とも本県の地の利を生かし、創造性のある地方産業を一層発展させていくことが求められています。

	指標名	指標値	順位	全国
1	県内総生産額（名目GDP）	8兆1,959億円	17位	503兆3,668億円
2	実質経済成長率（連鎖方式）	4.2%	10位	2.4%
3	第1次産業生産額	1,591億円	13位	7兆5,074億円
4	第2次産業生産額	3兆4,770億円	12位	137兆3,903億円
5	第3次産業生産額	4兆8,249億円	21位	375兆9,321億円

※1～5平成17年度の県民経済計算について、国民経済計算年報 平成19年版（いずれも内閣府）

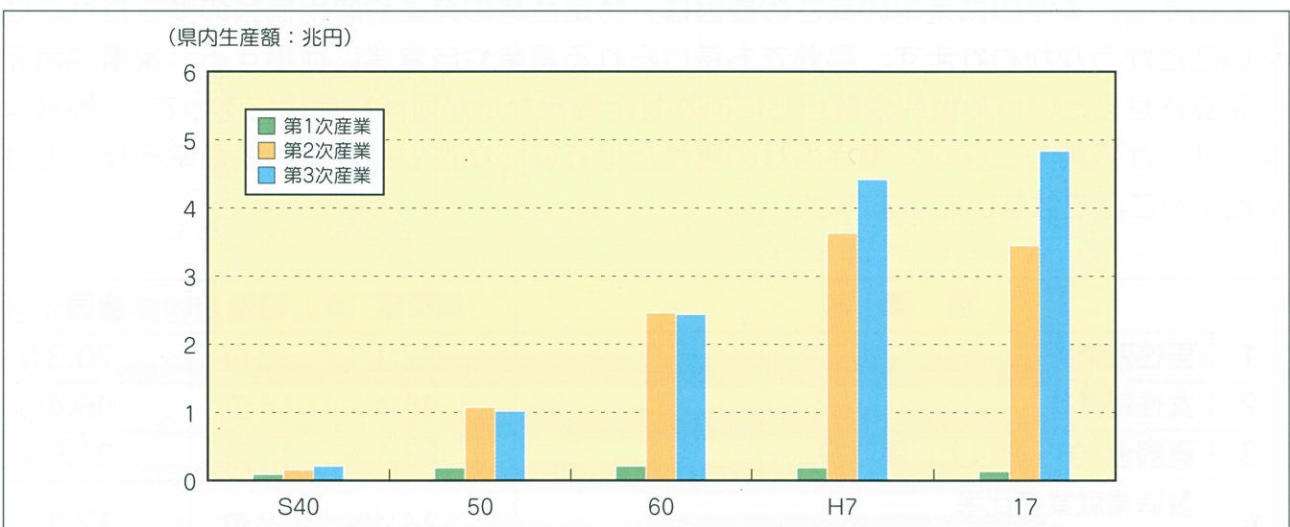
用語の解説

- 県内総生産 = 国のGDPにあたるもので、県内で生産された付加価値（新たに付け加えられた価値）の総額をいいます。
- 第1次産業 = 農業、林業、水産業 ○ 第2次産業 = 製造業、鉱業、建設業
- 第3次産業 = 卸売・小売業、金融・保険業、運輸・通信業、サービス業など

図1 実質経済成長率の推移



図2 各産業別の県内生産額（名目）の推移



※各年度の県内生産額は、その算出基準が異なります。

トピックス — とちぎ経済の影の立役者 コンビニエンスストア —

県内で近年比重が高まっている第3次産業ですが、その中でも特徴的なのがコンビニエンスストアです。人口10万人当たりのコンビニエンスストア数は全国10位。また平成16年の店舗数は平成3年の1.8倍、商品販売額は2倍と、大きく伸びてきています。わたしたちが毎日何気なく使っているコンビニが、本県の第3次産業の成長に貢献しているのです。

※平成16年 商業販売統計